

Upregulation of microRNA-31 associates with a poor prognosis of malignant pleural mesothelioma with sarcomatoid component

松本, 慎二

<https://hdl.handle.net/2324/1500545>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（保健学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏名	松本 慎二
論文名	Upregulation of microRNA-31 associates with a poor prognosis of malignant pleural mesothelioma with sarcomatoid component (肉腫型成分を含む悪性胸膜中皮腫における予後不良因子としての microRNA-31 の過剰発現)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 杉島 節夫 副査 九州大学 教授 藤本 秀士 副査 九州大学 教授 永淵 正法

論文審査の結果の要旨

胸膜悪性中皮腫は壁側胸膜の中皮細胞より発生する予後不良な悪性腫瘍で、その大半がアスベスト（石綿）曝露に起因する。本腫瘍の第一治療法である胸膜肺全摘術は、病巣が限局した早期の上皮型中皮腫のみに適応可能であるため、腫瘍組織型を含めた早期の病理診断が重要である。しかし一般的に早期病変の診断は良性疾患との鑑別診断が困難な事が多く、その最大の理由の一つとして感度、特異度に優れた両者の鑑別のバイオマーカーが存在しない事が挙げられる。

本研究では、近年数多くの腫瘍性病変においてその発現動態に特異的な変化が認められる microRNA(miR)に着目し、悪性胸膜中皮腫（25例）と対照である良性の中皮細胞過形成症例（20例）における miR-31 の発現の差異について FFPE サンプルを用いた RT-qPCR 法にて解析した。中皮腫では反応性と比べて明らかにその発現が低下していたが（ $P < 0.01$ ）、逆に過剰発現を示した群が存在し、それらは肉腫型成分を含む組織型であり、且つ非常に予後が悪い群であった（ $P = 0.0027$ ）。

悪性胸膜中皮腫診断における miR-31 の解析は、診断ならびに予後推定因子として重要な遺伝子学的バイオマーカーとなり得ることを示した。

以上、本論文の悪性胸膜中皮腫診断における miR-31 の解析は、診断ならびに予後推定因子として重要な遺伝子学的バイオマーカーとなり得ることを示し、悪性中皮腫の診断・治療に貢献するところが大きい。よって、調査委員による合議の結果、本論文は博士（保健学）の学位を授与するに値するものと認める。